

東アジア・フォーラム（E A F）

第11回年次総会

報告書

2013年9月

東アジア共同体評議会

まえがき

この報告書は、2013年8月20日（火）～22日（木）の3日間にわたり京都の国立京都国際会館で開催された「東アジア・フォーラム（EAF）」の第11回年次総会の議論を取りまとめたものである。

EAFは、2002年のAPT首脳会議で設置が決定されたAPT各国の官産学代表による年1回の意見交換会である。EAFは、第1回が2003年にソウルで開催されて以来、2004年にクアラルンプール、2005年に北京、2006年にカンボジア・シエムリアップ、2007年に東京、2008年にラオス・ルアンプラバン、2009年に韓国・ソウル、2010年にベトナム・ダラット、2011年に中国・成都、2012年にミャンマー・ネピドーの10の年次総会を経て、今回はその第11回となった。当評議会は、EAFの日本代表（ナショナル・フォーカル・ポイント）である日本国際フォーラムを補佐し、今次年次総会に日本代表団を派遣した。

この報告書は、EAF京都総会の内容を、当評議会議員を中心とする関係者に報告することを目的として、作成されたものである。ご参考になれば幸いである。

2013年9月
東アジア共同体評議会
議長 平林 博

目 次

第Ⅰ部：概括報告（東アジア共同体評議会事務局）

1. 概要	1
2. 議論の要旨	1
(1) 開会式	1
(2) 本会議セッション1 「観光資源のための協力」	3
(3) 本会議セッション2 「域内観光の促進」	4
(4) 本会議セッション3 「新しい観光と観光の円滑化」	5
(5) 閉会式	6
3. 第11回 EAF プログラム	6
4. 第11回 EAF 出席者リスト	8

第Ⅱ部：所感報告（日本代表団）

1. 平林博 東アジア共同体評議会議長	13
2. 溝畑宏 元観光庁長官・京都大学特命教授	14

第 I 部 :

概括報告（東アジア共同体評議会事務局）

概括報告

さる8月20日(火)～22日(木)、京都の国立京都国際会館を会場として「東アジア・フォーラム (East Asia Forum: EAF)」の第11回年次総会が開催されたところ、その概要は下記の通りであった。

1. 概要

EAFとは、ASEAN+日中韓3カ国 (APT) 首脳会議の要請により「東アジア・ヴィジョン・グループ (EAVG)」と「東アジア・スタディ・グループ (EASG)」が提出した報告書の中で提案された国際組織である。APT各国の官産学代表の年1回の意見交換会であり、2002年のAPT首脳会議で設置が決定され、2003年に韓国・ソウルで第1回が開催されて以来、毎年開催されている。トラック1.5 (官プラス民) の立場から、東アジア地域統合の動きに対して知的貢献を行ってきた。

今回の会合は、8月20日の鈴木俊一外務副大臣主催の歓迎レセプションで幕を開けた。翌21日の本会議では、「人と人との連結性強化:特に観光協力に焦点を当てて (Enhancing People to People Connectivity: Focusing on Tourism cooperation)」の全体テーマのもと、平林博当評議会議長の開会挨拶ならびに鈴木俊一外務副大臣、Khin Maung Tin 駐日ミャンマー大使、Taeyul CHO 韓国第2外務次官等による代表挨拶が続いた。本会議のセッション1では「観光資源のための協力」、セッション2では「域内観光の促進」、セッション3では「新しい観光と観光の円滑化」をテーマにそれぞれ活発な議論が繰り広げられ、山本恭司外務省アジア大洋州局地域政策課長による閉幕挨拶で幕を閉じた (プログラムについては3. 第11回 EAF プログラムを参照)。なお、翌22日には、希望者を対象に、京都迎賓館、御所、清水寺、金閣寺への視察をアレンジした。

EAFの運営にあたっては、各国政府ごとに指定された「国内調整窓口 (National Focal Point)」が、国内の調整作業と対外的なコミュニケーションの円滑化にあっている。日本側は (公財) 日本国際フォーラムが「国内調整窓口」となっており、当評議会はその意を受けて、今次 EAF において平林博当評議会議長が本会議の議長を務めた。

全体で ASEAN+3 の13カ国および ASEAN 事務局から総勢59名の官産学の代表者が出席し、日本からは、平林議長の他に、美原融三井物産戦略研究所フェロー、溝畑宏元観光庁長官・京都大学特命教授、石川薫当評議会常任副議長などが出席した (各国出席者については4. 第11回 EAF 出席者リストを参照)。

2. 議論の要旨

(1) 開会式

開会式では、冒頭、今次 EAF の議長を務める平林博当評議会議長、次いで日本を代表して鈴木俊一外務副大臣より挨拶が行われた。その後、ミャンマー、韓国、中国、ブル

ネイの代表より挨拶が行われた。それぞれの挨拶の要旨は、次のとおり。

(イ) 平林博 東アジア共同体評議会議長

人と人の連結性は、APT地域の多様性豊かな文化の交流によって促進されているが、特に今回のテーマである観光は、相互理解と友好関係の深化という点において重要な役割を果たすものである。この度のEAFは、日・ASEAN友好協力40周年に開催され、日本の代表的な観光都市であり且つ旧都である京都で開催されることに、大変意義がある。

(ロ) 鈴木俊一 外務副大臣

本年は、日本とASEANとの公式な関係が始まって40年目を迎える記念すべき年であり、12月には日ASEAN特別首脳会議を東京で開催する。このような日ASEANの記念すべき年に、EAFを開催できることを嬉しく思う。今や、情報通信速度は飛躍的に高まり、インターネット上で瞬時に海外の情報が得られるようになっているが、実際にお互いの国を訪問し、多様で豊かな文化を体験することが、深い相互理解と信頼関係を育むためには不可欠である。「つながる思い、つながる未来」。これは日ASEAN友好協力40周年のキャッチフレーズである。これには、人々が手を取り合い、力を合わせることでより良い未来を築くことができるとの想いが込められている。観光分野の協力の促進には、政府レベルの取り組みに加え、幅広い関係者の声が反映されることが重要であると考えており、EAFでの議論を通じて様々なアイデアが政府に提言されることが重要である。

(ハ) Khin Maung Tin 駐日ミャンマー大使

人と人の連結性の促進は、2010年の「ASEAN連結性マスタープラン」において打ち出された主要な目標の一つであるが、今ではASEANだけのことではなく+3の国も含めた目標となっている。今回は観光をテーマにしているが、観光はASEANのGDPの10%以上を占めている。ミャンマーへの観光客数は、近隣諸国よりまだまだ低いため、今後はさらに観光を推進していきたい。

(ニ) Taeyul CHO 韓国第2外務次官

観光の推進力は人であり、人と人の連結性の強化は、地域の多様性から生じる潜在的な課題をも克服することに寄与するものである。観光の発展のためには政府の支援が必要である。なお、人の移動が活発になることで、越境犯罪や不法滞在等が増加することも考えられ、こうした負の影響を如何に抑えるのか、協力が必要である。

(ホ) Ying Rong 駐日中国大使館公使

東アジアにおける観光分野の発展は、労働と資本の自由移動を効果的に促進し、人

と人との連結性を高める上で効果的である。観光分野の協力は、東アジア協力における優先順位の高いものとして位置づけられるべきであり、ビザ申請および国境管理プロセスを簡素化し、航空における連結性を高めることも重要である。

(へ) Mohd Sahrip OTHMAN ブルネイ外務貿易省副次官

過去2年間において、東アジアにおける観光客数は10%上昇している。2017年までの目標を定めた「ASEAN+3 観光協力ワークプラン」は、観光推進に役立つ効果的なツールとなっている。東アジアの観光産業を向上させるためには、地域協力、特にASEANと+3との協力が必要であり、ASEANは、これまでの+3側からのサポートに感謝している。

(2) 本会議セッション1「観光資源のための協力」

本会議セッション1「観光資源のための協力」では、カンボジア、タイ、マレーシア、中国の代表から、それぞれ次のような基調報告がなされ、その後リードディスカッションからのコメントおよび意見交換が行われた。

(イ) Puthvory KOEUT カンボジア観光省審議官

カンボジアにとって、観光はGDPと雇用の12%を担い、まさに「グリーンゴールド」である。特に持続可能な観光は、貧困削減に貢献するものであり、今後、環境・経済・社会面においてバランスがとれた観光政策を行うことが重要と考える。

(ロ) Arthayudh SRISAMOOT タイ外務省局長

連結性、航空交通政策、衛生管理、観光資源の保全、PPPは非常に重要である。その点からすると、現行の各国のビザや運転免許証の制度は障害となるかもしれない。今後、首都以外の地方への収入分配、自然・文化遺産保存のための人材開発も達成されなければならない。

(ハ) Datuk SHAHARUDDIN bin Md Som 駐日マレーシア大使

マレーシアは、2020年までに観光客3,600万人を目指す「マレーシア観光トランスフォーメーション・プラン」を策定した。それは、ホテルの室数、コンベンションセンターなどを整備し、地方でのホームステイ、エコ・ツーリズム、清潔な公衆トイレ、主要な港への投資、能力育成、CSRの推進などを行うものとなっている。

(ニ) Yaqing QIN 中国外交学院副学長

中国では、中流階級の急激な増加によって、海外向け観光客が2011年に比べ、2012年には15%も増加した。2020年までに観光がGDPの5%を占めると予

測されている。東アジアにおいて、景観、エコシステム、万国博覧会などの文化的な要素は、最も重要な観光資源である。

(3) 本会議セッション2「域内観光の促進」

本会議セッション2「域内観光の促進」では、ベトナム、ラオス、フィリピン、韓国、ASEAN事務局の代表から、それぞれ次のような基調報告がなされ、その後リードディスカッサントからのコメントおよび意見交換が行われた。

(イ) Binh TRAN Duc ベトナム外務省審議官

人と人との連結性を推進するにあたっては、若い世代に重点を置いて取り組むべきである。また、現在 ASEAN+3 域内における観光客数は7,800万人を越えているが、域内観光は今後も重要なツールであり、ビザ申請と国境管理プロセスを簡素化するなどして、さらなる拡大を目指すべきである。

(ロ) Sounh MANIVONG ラオス情報、文化・観光省局長

ラオスでは、観光産業を振興させるために、政府の「観光戦略」を策定し、法改正なども行っているところである。まだまだインフラなどで改善すべき課題があり、十分な資金調達、官民のパートナーシップ、+3の国および国際社会からの援助と支援が必要である。

(ハ) Marcos PUNSALANG フィリピン外務省特別アシスタント

フィリピンは、観光が経済成長および開発において最も重要な分野であると認識している。今年の上半期にフィリピンを訪れる観光客は、例年より11%も増加した。政府による観光キャンペーンが、この成長に貢献したといえる。ほとんどの観光客は ASEAN と東アジアの国々からの来訪者であり、今後もフィリピンは ASEAN 地域の観光と連結性の促進を続けていこう。

(ニ) Deokhyun JO 韓国観光協会会長

市場の動向は観光産業にとって最も重要なものであり、ASEAN+3 各国は、観光客の動向に関する情報を共有することにおいて協力する必要がある。また、今後は共通のビザ制度を整えることも必要ではないか。観光においては安全性が重要であり、例えば、韓国政府は海外旅行製品向けの消費者ガイドラインを設けようとしているところである。

(ホ) Bala K. PALANIAPPAN ASEAN 事務局主任

人と人との連結性は、「ASEAN 連結性マスタープラン」における柱であり、今後更

なる推進のために、ビザ発給を緩和し、相互承認協定(MRAs)などを進展させることが必要である。近年の格安航空は、ASEANを訪れる観光客を10%増加させるのに貢献している。今後、人材開発などもさらに進め、観光を促進していきたい。

(4) 本会議セッション3「新しい観光と観光の円滑化」

本会議セッション3「新しい観光と観光の円滑化」では、ブルネイ、インドネシア、シンガポール、日本の代表から、それぞれ次のような基調報告がなされ、その後リードディスカッサントからのコメントおよび意見交換が行われた。

(イ) Mohd Sahrip OTHMAN ブルネイ外務貿易省副次官

ASEAN+3の間では、観光分野の促進に向けて互恵的な協力関係を築いていくことに対するコンセンサスができつつある。国境を越えたツアープログラムは、人気の観光スポットを巡ることで、観光客の東アジア地域の理解に寄与するであろう。地域に根ざした観光は、それぞれの地域文明の理解および歴史的遺跡の保護を進展させ、都市部以外の地方観光を開かれたものとするであろう。

(ロ) I Gde PITANA インドネシア観光・エコノミー省資源開発次官

新しい観光は、実り豊かで冒険的で且つ学習的な経験が出来るものであるべきである。ビザの制度の緩和という点において、インドネシアには「機内入国ビザ発給制度」があるが、これは航空機だけでのことでなく、例えばオーストラリアの港を出港するクルーズにも適用している。インドネシアにおいては、海外直接投資(FDI)に関して、昨年は210%もの急激な増加を経験し、この後の10年間で、国内に700から800のホテル建設を予定している。退職後の人々を対象にしたセンターは、日本人に人気を博している。今後は、そうした施設などにおけるスタッフのサービスの質が鍵となるだろう。

(ハ) Philip ONG シンガポール外務省審議官

インターネットとソーシャル・メディアは、新たな観光地への広報という点で重要な役割を果たす。観光には、地方の経済発展に貢献し、さらに、低価格且つ高価値、低い医療コスト等が見込まれる莫大な可能性が秘められている。特に、観光を通じて若者の移動が及ぼす波及効果は、見落とされるべきではない。

(ニ) 溝畑宏 元観光庁長官・京都大学特命教授

観光は、包括的な産業で、日本の成長戦略の主要な柱の一つである。特に観光は、地域を活性化するものであり、日本では、ニセコ、佐渡、直島、飛騨高山など、過疎地域が有名な観光地に変化した実例がある。その成功の立役者となったのは、地域の

高校生や年配の方々などの地元の人々である。他に、最近日本を訪れる観光客の間では、耐震構造が整備された施設を巡るインフラ観光も人気がある。観光は、東日本大震災の被災地を復興させる方法でもあり、この度の APT 各国からの温かい支援に対し、改めて深い感謝を述べたい。

(5) 閉会式

閉会式では、議長を務めた平林博当評議会議長より、下記のような要約が行われた。

「この度の EAF においては、観光が、人と人との連結性において決定的に重要な分野で、APT 域内における相互理解と友好を促進させるものであり、また、経済成長を促し、地域間および人と人との間の格差の削減、雇用の創出、貧困の削減などに有効であるとのコンセンサスが得られた。観光において、安全、安心、衛生 (Safety, Security, Sanitary のスリー S) が重要であり、ビザの取得、外国語の案内板、航空交通、ATM、Wi-Fi、宗教に配慮したレストランなどの設備の充実も必要である。そのため、プライベート・セクターからの関与や PPP (Public Private Partnership) が大変重要である。

今後、エコ・ツーリズム、メディカルおよびヘルス・ツーリズム、サイクリング・ツーリズムなどの新しい観光が促進されていくであろう。APT 各国は、豊かな文化、多様な歴史、美しい自然を有しており、世界各国から APT 各国を訪れる観光客は、域内の一国にだけ来るのではなく、複数の国に訪れることが望ましい。各国による観光誘致はゼロ・サムゲームであってはならず、APT 各国で協力して取り組んでいく分野である。今後、観光協力の促進のためには、APT ベスト・プラクティスを採用するようにしていくべきである」

最後に、山本恭司外務省アジア大洋州局地域政策課長より、今次 EAF 開催の成功を感謝する祝辞などが述べられ、閉会した。

3. 第 1 1 回 E A F プログラム

August 20 (Tuesday)

19:00 “Welcome Reception” hosted by H. E. Mr. Shunichi Suzuki, Parliamentary Senior Vice-Minister for Foreign Affairs, Japan (Venue: Kokin Jr. Ball-room, 5th Floor, Hotel Granvia Kyoto)

August 21 (Wednesday)

09:30-10:15 Opening Ceremony
Welcome Remarks by Japan (approx.5min)
Statement by the Government of Japan (approx.7min)

Statements by representatives from Myanmar, ROK, China and Brunei
(approx. 7min per person)

Photo Session

10:15-10:30 Coffee Break

10:30-12:20 Plenary Session I: Cooperation for Tourism Resources

Keynote Speech by Representative of Cambodia (approx.7min)

Keynote Speech by Representative of Thailand (approx.7min)

Keynote Speech by Representative of Malaysia (approx.7min)

Keynote Speech by Representative of China (approx.7min)

Lead Discussant A : Representative of Indonesia (approx.5min)

Lead Discussant B : Representative of Myanmar (approx.5min)

Lead Discussant C : Representative of Japan (approx.5min)

Lead Discussant D : Representative of Singapore (approx.5min)

Lead Discussant E : Representative of Laos (approx.5min)

Free Discussion (approx.40min)

Summarization by Chairperson (approx.5 min)

12:30-13:50 Lunch

14:00-15:45 Plenary Session II: Promotion for Intra-regional Tourism

Keynote Speech by Representative of Vietnam (approx.7min)

Keynote Speech by Representative of Laos (approx.7min)

Keynote Speech by Representative of Philippines (approx.7min)

Keynote Speech by Representative of ROK (approx.7min)

Lead Discussant A : Representative of Brunei (approx.5min)

Lead Discussant B : Representative of Malaysia (approx.5min)

Lead Discussant C : Representative of China (approx.5min)

Lead Discussant D : Representative of Cambodia (approx.5min)

Free Discussion (approx.50min)

Summarization by Chairperson (approx.5min)

15:45-16:00 Coffee Break

16:00-17:45 Plenary Session III: New Tourism and Facilitation for Tourism
Keynote Speech by Representative of Brunei (approx.7min)
Keynote Speech by Representative of Indonesia (approx.7min)
Keynote Speech by Representative of Singapore (approx.7min)
Keynote Speech by Representative of Japan (approx.7min)
Lead Discussant A: Representative of Thailand (approx.5min)
Lead Discussant B: Representative of Philippines (approx.5min)
Lead Discussant C: Representative of ROK (approx.5min)
Lead Discussant D: Representative of Vietnam (approx.5min)
Free Discussion (approx. 50 min)
Summarization by Chairperson (approx.5 min)

17:45-18:05 Closing Ceremony
Summarization by Chairperson (approx.10 min)
Closing Remarks by Representative of Japan (approx.7min)

18:50~20:30 “Dinner” hosted by Ambassador for Kansai Region, Mr. Seiji KOJIMA

August 22(Thursday)

9:30~17:00 “Excursion” and/or Departure of Delegates

4. 第11回EAF出席者リスト

Brunei

1. Mohd Sahrip OTHMAN Deputy Permanent Secretary
Ministry of Foreign Affairs and Trade
2. Jessica Hui Leng TIAH Second Secretary
Ministry of Foreign Affairs and Trade

Cambodia

3. Puthvory KOEUT Deputy Director General
Ministry of Tourism
4. Roatlomang KONG Deputy Director
Ministry of Tourism

5. Sarin CHHOEURN Official
Ministry of Tourism

Indonesia

6. I Gde PITANA Deputy Minister for Resources Development
Ministry of Tourism and Creative Economy
7. Gentur PRIYATNO Head of Planning and Cooperation
Ministry of Tourism and Creative Economy
8. Ika PERMANASARI Head of Planning
Ministry of Tourism and Creative Economy
9. Rendy Hadiputra HADI Functional Staff
Ministry of Foreign Affairs
10. Adilla ANET Functional Staff
Ministry of Foreign Affairs

Lao PDR

11. Sounh MANIVONG Director General
Ministry of Information, Culture and Tourism
12. Ekkaphab PHANTHAVONG Deputy Director General
Ministry of Foreign Affairs
13. Bounthala PANYAVICHITH Director of Division
Ministry of Foreign Affairs

Malaysia

14. Datuk Shaharuddin Md. Som Ambassador
Embassy of Malaysia
15. Rashidi HASBULLAH Deputy Secretary General
Ministry of Tourism and Culture
16. Noor Azlan ABU BAKAR Director
Tourism Malaysia Tokyo Office
17. Yong EE CHIN Senior Principal Assistant Secretary
Ministry of Tourism and Culture

Myanmar

18. Khin Maung Tin Ambassador
Embassy of Myanmar

- | | |
|--------------------|--|
| 19. Aung Htoo | Deputy Director General
Ministry of Foreign Affairs |
| 20. Than Tun | Member
Ministry of Foreign Affairs |
| 21. Moe Myint Kyaw | Secretary General
Federation of Chambers of Commerce and Industry |
| 22. Aung Ko Ko Oo | Staff
Embassy of Myanmar |

Philippines

- | | |
|----------------------|--|
| 23. Marcos PUNSALANG | Special Assistant
Department of Foreign Affairs |
| 24. ARACHEC Soriano | Department of Tourism |

Singapore

- | | |
|------------------|--|
| 25. Philip ONG | Deputy Director General
Ministry of Foreign Affairs |
| 26. John WONG | Professional Professorial Fellow
East Asian Institute |
| 27. Han Yang LAU | Desk Officer
Ministry of Foreign Affairs |

Thailand

- | | |
|--------------------------|---|
| 28. Arthayudh SRISAMOOT | Director General
Ministry of Foreign Affairs |
| 29. Suwit MANGKHALA | First Secretary
Ministry of Foreign Affairs |
| 30. Nantana GAJASENI | Executive Director
ASEAN University Network |
| 31. Nongnuch CHUNBANDHIT | Director
Ministry of Education |
| 32. Kamjorn TATIYAKAVEE | Deputy Secretary General
Office of the Higher Education Commission |

Vietnam

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 33. Binh TRAN Duc | Deputy Director General |
|-------------------|-------------------------|

34. Khang GIANG LY LIEN
Ministry of Foreign Affairs
Director
24HCO Visittovietnam Tour Company Ltd.
35. Phan MINH GIANG
Desk Officer
Ministry of Foreign Affairs

ASEAN Secretariat

36. Bala K. PALANIAPPAN
Director of External Relations
ASEAN Secretariat

China

37. Ying Rong
Minister-Counselor
Embassy of the People's Republic of China
38. Yaqing QIN
Executive Vice President
China Foreign Affairs University
39. Ling JI
Deputy Director
China Foreign Affairs University
40. Xin YU
Deputy Director
CCPIT China

Korea

41. Taeyul CHO
Second Vice Minister
Ministry of Foreign Affairs
42. Byeong-hoo JUNG
Deputy Director General
Ministry of Foreign Affairs
43. Sanguk YOON
Advisor to the Vice Minister
Ministry of Foreign Affairs
44. Hyuk-sang LEE
Second Secretary
Ministry of Foreign Affairs
45. Changwook KIM
Third Secretary
Ministry of Foreign Affairs
46. Yoon-hwan SHIN
Professor
Sogang University
47. Deokhyun JO
Director
Korea Tourism Organization

Japan

48. Shunichi SUZUKI Parliamentary Senior Vice-Minister for Foreign Affairs
49. Hiroshi HIRABAYASHI President
The Council on East Asian Community (CEAC)
50. Hiroshi MIZOHATA Adjunct Professor , Kyoto University
Former Commissioner of the Japan Tourism Agency
Former President of the Oita Trinita Professional Soccer Team
51. Toru MIHARA Fellow
Mitsui Global Strategic Studies Institute
52. Kaoru ISHIKAWA Senior Executive Director/Director of Research
The Japan Forum on International Relations
53. Seiji KOJIMA Ambassador for Kansai Region
Ministry of Foreign Affairs
54. Yasushi YAMAMOTO Director
Ministry of Foreign Affairs
55. Ken ONO Secretary to Parliamentary Senior Vice-Minister for Foreign Affairs
56. Yoshifumi SASATANI Deputy Director
Ministry of Foreign Affairs
57. Mayu WATANABE Executive Director
The Japan Forum on International Relations
58. Yona KIKUCHI Senior Research Fellow
The Japan Forum on International Relations
59. Yohei TAKAHATA Research Fellow
The Japan Forum on International Relations

第Ⅱ部：

所感報告（日本代表団）

所感報告

1. 平林博 東アジア共同体評議会議長

本年は、日本が議長国となり、京都国際会議場にて開催した。

実質的な議論については、別途の報告に委ねるが、その他の点での所感は次の通り。

(1) 議題は、「人と人との連結性強化：特に観光協力に焦点を当てて (Enhancing People to People Connectivity: Focusing on Tourism cooperation)」であったので、私は実質的にホストとなる外務省に対し、世界的な観光地京都での開催を強く主張し、外務省も努力してくれた。ちなみに、京都国際会議場のみならず、会議後の視察についても京都御所と京都迎賓館の特別参観を提案し、実現された。

一般的に、知的交流は自由で闊達な意見交換を保障するために、リトリート方式が望ましいというのが卑見である。G8サミットは本会議もシェルパ会合もそのようにしてきたが、同様の趣旨である。EAFについても、最近の主催国はそうする傾向があるので、APTのリーダー国である日本が、多少の予算超過を覚悟しても京都開催としたことは、他国に引けを取らない意味でもよかった。

(2) 議題を絞ったため、議論は相当深いものとなった印象があり、政策提言の見地からも有効であった。

(3) EAFは、官、産、学の三者の代表が集まるユニークな会合であるが、三者すべてを送ったのは日本以外にはなかった。わずかに数カ国が、官代表と学界代表、あるいは官代表と産代表を送ってきた。このままでは、EAFの趣旨が崩れていくことを恐れる。

一般的に、ASEANないしAPT諸国においては、官がすべてのイニシアティブをとり、民は付随的であるのが通常で、EAFといえども例外ではない。折角の三者共同での会議というASEAN首脳会議などの期待に応えられないのは残念である。

夕食会や昼食会も、立食ないしシッティング・ブッフェとし、敢えて席次は決めなかった。私が出席した過去2回の会議（ベトナムと中国）では、官代表が特別席を与えられたがほかの出席者は「御勝手に」という「官優位の差別待遇」がなされていた。京都会合では、意図的にこの慣行を打破した。

(4) 議長は、建前上は前議長国との共同議長であるため、ミャンマーの代表 Aung Htoo 外務省次長を立てて、3セッションともに私と Htoo 次長が交互に、Key Note Speeches および Lead Discussions と自由討論に分けて議長役を務めた。各セッションの取りまとめは前者を担当した共同議長が行い、全体の締めくくりは私が行った。これは、ASEAN Way というか APT Way というか、私としては「協調」の精神を重視したものである。もともと、共同議長の力量次第であるが、幸い Htoo 次長はしっかりしていた。

(5) これまでEAFは、全体会合、分科会、全体会合の構成で行われてきた。分科会は、三者代表がそれぞれ分かれて会合したが、これでは三者合同会議の趣旨の半分は損なわれるというのが、私の所感であった。そこで、外務省とも相談し、議長国のPrerogativeにより、分科会を廃止した。すべての会合にすべての出席者が出ることになり、結果はポジティブであった。今後の先例となるかどうかは、次期議長国次第だが、一石を投じた意味は大きいと考える。

(6) 今回の会合の前に、APTのセカンド・トラックで大きな役割を果たしてきたマレーシアのIISS代表マハニ女史が癌で逝去されたが、私よりは席上心からの哀悼とこれまでの功績をたたえる発言を行い、中国他の何人かの代表もフォローした

2. 溝畑宏 元観光庁長官・京都大学特命教授

観光庁長官在任時、2010年にAPEC大臣会合に参加したが、その時、議論した観光による地域間交流、相互交流、理解の促進などによる経済の活性化、文化振興などが、今回各国において更に強化されていること、また各国において観光が経済の成長戦略の重要な施策になっていることを強く感じた。観光立国を推進している立場としてはとても嬉しく感じた。

(1) 特に当時、重点課題とされていたビザの緩和、CIQの改善、LCCの促進、多言語表示、ニューツーリズムの推進が関係国の協力の下、具体的に推進されていることは喜ばしいことでした。

(2) 会議でも申し上げましたが、APEC大臣会合で議論された観光におけるリスクマネジメントについては東日本大震災後の風評被害対策には大変参考になった。今後、今回の会議で議論された各国の施策に具体的に活かされることを願いたい。そのため今回議論されたことの各国の取り組みをフォローするとともに、今後現場に反映させる意味で関係する民間団体、民間企業の参加も検討してもいいのではないかと思います。

(3) 最後に素晴らしい成果のあった今回の会議を支えた事務局をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げますとともに今後この会議に可能な限り、関わり、協力していきたいと思っております。

—了—

禁無断転載

CC-J-IV-0023



東アジア共同体評議会

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301

[Tel] 03-3584-2193 [Fax] 03-3505-4406

[URL] <http://www.ceac.jp> [Email] ceac@ceac.jp